

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【1年生配布用】

No22 岐阜県立大垣北高等学校SGH推進部

本日は5領域入門講座の2回目！質問できる人に成長を！

1 目的 「5領域」に関わる研究者による本講座を通して、後期の研究テーマを考え、設定していくことを目的とする（前回の目的の抜粋）は達成できたでしょうか？ 1回目の講義で、大学の先生方の講義スタイルにも慣れたことと思います。分からない言葉や概念も多いと思いますが、質問してみたいポイントはあったはずで。今回は、自分自身が質問者として発言することで、講義の価値を更に高めることを目的とします。

2 日時 平成27年10月30日（金）5・6時限

■「思索の時間」開始（13時05分）前に移動を開始し、各講義室で「思索」を！

3 時間配分 講義（80分間）13時20分～14時40分（学習シートへのメモ）

質疑応答（15分間）14時40分～14時55分※

記録作成（15分間）14時55分～15時10分（学習シートのまとめ・感想）※

※本日は通常授業ですので、15分間設定しています。十分に時間の活用をしてください。

4 講師・講演内容・参加人数・講演場所

【10月30日（金）】

領域名	大学名等	職名・氏名	内容	参加人数	講演場所
国際開発	名古屋大学国際開発研究科	特任助教・島津侑希	日本の国際協力：政府と民間のアプローチ	40	PC1
比較教育	名古屋大学国際開発研究科	特任助教・荻巣崇世	「国際開発」のために教育が果たすべき役割について	50	ゼミ南
国際ビジネス	大阪大学国際公共政策研究科	教授・野村茂治	移民・難民・都市集中などの「人の動き」に伴うグローバル課題を考える	74	ゼミ北
環境・エネルギー 再生可能エネルギー	岐阜大学工学研究科	准教授・吉田弘樹	未来型太陽光発電システムが東南アジアの発展に如何に役立つか	43	PC2
環境・エネルギー 都市環境	岐阜大学工学研究科	准教授・山田俊郎	安全な水と衛生設備の改善が東南アジアの発展に如何に役立つか	16	生物講義室
環境・エネルギー 農学	岐阜大学応用生物科学部	准教授・伊藤直人	環境と感染症：病原体は感染症の原因のひとつにすぎない	56	地歴
国際医療	名古屋医療センター	教授・横幕能行(臨床) 教授・岩谷靖雅(研究)	エイズ等の感染症研究や日本の医療対策が、東南アジアの発展に如何に役立つか	41	理科総合

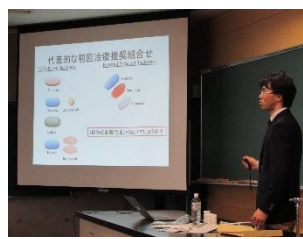
5 持ち物 課題研究ファイル（ポートフォリオ）、配付された「学習シート」、筆記用具

10月23日の講師の先生方に聞きました！

「先生がお考えになっておられるグローバル人材の定義は？」



- 【国際開発】 島津先生** ■多面的に物事を考えることができる。
■違う文化、社会などがあることを理解し、自分なりに意見をもつことができる。
- 【比較教育】 荻葉先生** ■色々な人の立場に立って、俯瞰的に物事を捉えつつ（ビジョンを持ち）、地道に周りの人と協力しながら行動できる人。
- 【国際ビジネス】 塩見先生** ■今日、政治の世界に国境はあっても、仕事の世界に国境はない。多文化共生のこの時代には、批判力と共に、新しく共感性が必要となる。
- 【環境・エネ】 市村先生** ■実際に外国に行かなくても、今の日本の社会を相対化して見ることができる。



- 【環境・エネ】 増田先生** ■物事を多面的に捉えることができる人物。
■単一方向から見るだけでなく、裏からも見ることができると良いと思う。
- 【環境・エネ】 小見山先生** ■自然や経済面で、広域で生じる問題を、広視野の科学概念で処理できる人材。
(世界に出ていくためには、どう猛さがが必要です)
- 【国際医療】 横幕先生** ■多様な価値観を受容できる人。(国内外、校内外、どこでもいいのですが、自らの中で確固とした価値基準を有しながら、相手に応じて、自らの標準を柔軟に変えることができれば、なお良いと思います。)
- 【国際医療】 岩谷先生** ■積極性があり、多文化・他文化への理解と許容でき、対等な立場で交流できる。

いかがでしたか？ 8名の先生方は、ご講演後の控室で、お疲れのところを黙々と質問に対してペンを走らせていらっしゃいました。示し合わせた訳でもないのに、驚くほどよく似たお答えが多くみられます。キーワードを敢えて挙げるならば、「多面的」・「多様性」、「共感」・「共生」、「俯瞰」・「相対化」、「受容」・「許容」・「柔軟性」といったところでしょうか。

こうした先生方の言葉は、これからのグループ研究のテーマ決定にも参考にしていきたいですね。